

山本のぶあき後援会だより

yamamoto nobuaki supporters' association news

平成24年
初 夏
第49号
飛翔会

発行/奈良県議会議員 山本のぶあき後援会事務所 檀原事務所 〒634-0834 檀原市雲梯町862-1 TEL.0744-24-0148 FAX.0744-24-0149

朝顔で

結束かたく 復興へ！ 未来に希望 決断のとき！！

奈良県議会議員 山本のぶあき

ご挨拶

平成二十四年度の予算も決まり、新しい年度の県政がスタートしました。



県議会も昨年の選挙から一年が過ぎ、六月議会では、役員改選も予定されています。今年度の予算は、国では東日本大震災、県では紀伊半島大水害の対策に力を入れた予算になりました。

私もこの一年間、被災地に何かできることをと思いながら活動してきましたつもりですが、なかなか十分なことはできませんでした。これから先、復旧・復興には長い期間を要すると思いますが、その中でも原発事故による放射能の問題では、本心に痛みが起ります。今回の原発事故が起きるまでは、原子力発

電所の設置や再稼働などについては、奈良県に住んでいる私自身、あまり真剣に考えたことがありませんでした。福島原発事故で、放射能汚染の恐ろしさを知りましたが、一年以上経過し、電力需給の不足から政府の原発再稼働方針は、仕方のないことだと思っていました。

しかし、ある時、福井大学の荒木睦大教授からいただいた「反原発、脱原発についての手紙」と、竹田恒泰氏の「これが結論！日本人と原発」の本を進呈され読んでから、原発に対する考え方が変わりました。

今までの原子力政策は本当に正しかったのか？これからの日本にとって本当に原発が必要なのか？大きな疑問を持ちました。「原子力発電所が再稼働しないと、電力不足に陥る。日本がある意味で集団自殺をするようなことになってしまふ」と仙谷議員は言いました。竹田氏によると、「最

新式の火力発電、ガスタービン・コンバインドサイクルを設置すれば、何十年もかかって、また莫大な費用を費やして原発を作るよりも、五年以内に、費用も原発の二十分の一で済む。エネルギー不足は補える」と述べています。何より原発は安全でないことが、今回の事故で証明されました。

この本を読み、また、私なりに勉強し、真剣に考えた結果は、子どもや孫の世代に、原子力の負の遺産は残してはいけな、日本に原発はいらないと確信したのであります。今後は何かの方法で、脱原発を目指した活動をしたいと思っております。

最後に、今年の後援会事業で、七月には「山本のぶあきと語る会」を、九月には、後援会女性部の「あきな会」で、日帰り親睦バス旅行を計画していただいております。多くの皆様のご参加をお願ひ申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

県議会活動

文教くらし委員会 県外調査(高知県)



中高一貫教育の研修
高知県立高知南中学校・高等学校

過疎・南部地域振興 対策特別委員会

被災地調査(十津川村・大塔村)



※「結束」は朝顔の花言葉です。



消防出初式



檀原市軟式少年野球
会長杯争奪大会開会式



←(宮城県名取市)市独自で作られたがれき処理施設を視察

高取町町家のひな巡り



あすかいちご狩り
パーク開園

